

冤罪被害者への支援 歌でつなぐ

冤罪音楽プロジェクト イノセンス
「真実・事実・現実 あることないこと」
完成記念ライブ

開催日○2018.3.16
space&cafe ボレボレ坐(東京/中野)

文・写真○朴琇和(本誌編集部)

警察や検察の捜査によって「殺人犯」に仕立て上げられ、人生の30~50年近くを獄中で過ごした冤罪被害者たちの友情を描いた、金聖雄監督の最新ドキュメンタリー映画『獄友』が公開された。冤罪被害への社会の理解を深め、被害者支援の輪を広げようと、映画製作と連動し発足したのが「冤罪音楽プロジェクト イノセンス」。フォーク歌手の小室等さんの呼びかけに応えた約30人のアーティストたちが、オリジナル曲「真実・事実・現実 あることないこと」を歌い繋いでいく。詩人の谷川俊太郎さんが作詞し、小室さんが作曲。映画の主題歌にもなっている。

16日に行われた曲の完成記念ライブは、80人ほど入る会場があつという間に埋まり、出演者、観客、被害者と家族らが時間を共にした。小室さん、谷川賢作さんら4人による「獄友イノセンスバンド」、在日歌手の李政美さん、音楽ユニット「六文銭'09」が出演し、「ありがとういのち」(李さん)、「歌っていいのだ」(六文銭'09)など8曲ほどを披露。ま



た、刑務所内で音楽クラブに入っていた冤罪被害者の桜井昌司さんも、支援団体などに感謝を込めて作った「今あなたに」という歌を披露し拍手喝采を浴びた。

最後に「真実・事実・現実 あることないこと」を出演者で合唱。「コトバはヒトのつごうでかわる うそがほんとのかめんをかぶり うそのすがおはやみのなかー」。真実が掻き消され冤罪に追いやられる理不尽な現実を歌った歌詞が、軽快な曲と観客の手拍子とともに鳴り響く。

「どうしても光があたりにくい問題。テーマは決して軽いがないが、映画や音楽を通して笑い、その後少し考える、そんなきっかけになれば」(金監督)。

楽曲のCDは会場でも先行販売され、即完売。売上金は冤罪被害に苦しむ人々の支援に使われる。

CULTURE NEWS

「춘향아 울지마라—泣くな! チュニャンー」

劇団タルオルム 第12回本公演

18世紀より歌い語り継がれてきた名作「春香伝」が、劇団タルオルムによりマダン劇として生まれ変わる。艶やかで鮮やかな古典の世界観に加え、伝統芸能の歌とリズム。美しい言葉が紡ぎ出す物語を6人の役者たちが演じる。脚色・演出：金民樹



日時:5/18(金)16:00/19:30(日本語公演)、19(土)15:00/19:00(朝鮮語公演)、21(月)14:00(日本語公演)/19:30(朝鮮語公演)※受付開始は開演の45分前

場所:東大阪市立荒本人権文化センター3階大会議室(荒本駅徒歩5分)
チケット:一般(前売2500円、当日3000円)、大学生・障害者・65歳以上(前売2000円、当日2500円)、小学生~高校生(前売、当日共に1000円)

問合せ: Email:talorum2005@yahoo.co.jp

映画「獄友」主題歌がCD化

収益は冤罪被害者支援へ

上記で紹介した「冤罪音楽プロジェクト イノセンス」のアルバムが発売された。複数のアーティストが歌いつなぐ「We Are The World」(1985年・USA フォー・アフリカ)をお手本に作られた、映画「獄友」の主題歌「真実・事実・現実 あることないこと」(作詞:谷川俊太郎、作曲:小室等)の他、参加したアーティストや被害者の桜井昌司さんの歌、映画のサウンドトラックが収録されている。全36曲、2枚組。



価格:2000円+税

問合せ: 冤罪音楽プロジェクト イノセンス (Tel:042-316-5567, Fax:042-316-5882)

HP: <https://innocence2018.wixsite.com/in2018>